

先ほど任命した、生徒会や学級のリーダーの皆さんは、学校生活の改善や向上を目指して、誰かの指示を受けてから動くのではなくて、自分で考え判断し、自ら行動することを大切にしてください。自ら行動することが、本物の力を培うことにつながります。トライ・アンド・エラーを繰り返しながら、人は成長し、よりよいものが生み出されるということを忘れないでください。

また、次年度、全校生がもっと少なくなったときに、どのような生徒会活動を行っていくのか、今のうちから考えて準備をしてください。大きな学校では決して取り組むことのできない、斬新な取組を期待しています。

次に、今月26・27日に行われる新人大会に出場する1・2年生の皆さん。人数は少ないですが、臆することなくそれを強みにして、自分がそしてチームが成長できるような試合をしてください。大野中の歴史と伝統に、新たな1ページを加えてください。健闘を祈ります。

さて、今週の「天声人語で200字作文」では、「日本人はどうして大人しく自粛に従うのか」について、皆さんの意見を書いてもらいました。中でも3年生には鋭い指摘が見られ、感心しました。皆さんの意見を読んで、日本人の強み、そしてそれに寄与する学校教育の重要性を改めて感じましたし、学校教育を担うものとして、身の引き締まる思いをしました。

一方では、私たちが、自分自身で物事の是非を深く考えたり判断したりせずに、周りの空気に合わせて、何の迷いも疑いもなく行動することが少なくないのではないかという怖さも感じました。力の強い側が「要請」という名の巧妙な圧力をかけ、市民の側はじわじわと「自粛」の連鎖へと追い込まれ、偏見や差別、格差や争いを生み出す構図を描くことは避けなければなりません。

先日、テニスの全米オープンで優勝を果たした大坂なおみ選手は、大会を通じて人種差別への抗議を続けました。アメリカで黒人の人たちが警察官らの行為によって命を落とす事件が相次ぐなか、大坂選手は犠牲者の名前が記されたマスクを7枚持参し、試合ごとに1枚ずつ着けて登場しました。ネット上では、「スポーツに政治問題を持ち込むな」といった声もあがりましたが、「選手である前に、一人の黒人女性だ」との大坂選手の思いは揺るぎませんでした。

試合後のインタビューでは、大坂選手は集まった記者たちへ、次のように問いかけました。

「あなたが（私から）受け取ったメッセージは何ですか。」

今、私の中では、「世界を変える、自分を変えずに」という彼女からのメッセージが力強く響いています。

皆さんも日々の学校生活や授業の中で、疑問に思うことや問いを見つけ、声に発して仲間と共有し、自分たちで何とかしようと考え、解決に向けて行動していくと、学ぶことや生きることがきっと楽しくなるでしょう。

実りの秋にふさわしい、皆さんの活躍を楽しみにしています。